

テントの下には、瑞々しい緑があふれている。

目の前に並ぶ野菜を囲み、生産者と消費者が言葉を交わしながら手を動かす。ここは、ラオス国内で大切に育てられた有機農産物が集まる首都ビエンチャンにある市場だ。一般的な市場では地面に野菜が山積みになされることも多い中、この市場では一つひとつが丁寧に扱われている。ラオスの農業は小規模農家が中心で、自然と向き合いながら営まれてきた。化学肥料や農薬の使用が比較的少ないことは、有機農業を広げていくうえでの大きな強みだ。

ラオス政府は、有機農業を通じて人々の

世界の 景色から



公正な関係と暮らしの質を高めることを目指している。国が定めた有機認証の規則のもと、認証農家は基準を守り、生産を続けている。

この市場は、生産の現場と食卓をやさしくつなぐ、有機農業のこれからを支える場所でもある。

写真 福長 文香

大学では農学を学び、エジプトでの稲作研究に力を注いだ。開発コンサルタント企業であるNTCインターナショナル（株）に入社し、農業・農村開発分野の国際協力に携わっている。仕事を通じて世界と向き合いながら、いつかふたりの子どもに広い世界を見せたいと願い、日々業務に取り組んでいる。

ラオス

丁寧さが息づく市場

